

# 令和6年度 第1回 宇治市乳幼児教育・保育推進協議会会議録

日 時 令和6年4月16日（火） 午後3時30分～午後4時45分

場 所 宇治市生涯学習センター 2階 一般研修室

出席者

委 員 佐川会長、杉本一久副会長、松井委員、坂本委員、岩崎委員、  
杉本俊恵委員、中西委員

事務局 木上教育長、福井教育部長、川崎同部副部長、武田教育支援センター長、  
大槻学校改革推進課担当課長兼学校教育課主幹、安留学校教育課長、  
垣見学校教育課兼学校改革推進課主幹、  
波戸瀬福祉こども部長、雲丹亀同部副部長、栗田保健推進課長、畑下同課副課長、  
松井保育支援課長、齊田乳幼児教育・保育支援センター準備室主幹

## 会議内容

### 1 開会

- ・事務局より、会議の成立確認報告
- ・事務局より新任委員の紹介

### 2 市長あいさつ

- ・松村市長より挨拶

### 3 検討

#### (1) 専門部会での検討体制等

- ・事務局より、資料3に基づき説明

会 長： ありがとうございます。それでは、ただ今の事務局からの説明について、まず、資料6ページまでの2つの専門部会の継続設置についてや、研究・研修専門部会の新たな設置やその検討体制につきまして、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

委 員： 基本的には事務局案でいいと思います。ただ、部会員につきましては、より意見を述べていただける方を新たに推薦したいと考えております。

事務局： 専門部会の部会員につきましては、任期を1年と定めており、昨年度末で任期は

終了しております。今年度の部会員につきましては、来月に推薦依頼をさせていただきますので、その際に新たな方を推薦していただければと考えております。

会 長： 保幼小連携専門部会では、小学校からももう少し参加していただけないかというご意見が出ていたと思いますが、いかがでしょうか。

事務局： 昨年度の保幼小連携専門部会の中で、小学校の先生からの意見をもう少し出していただいた方がいいのではないかというご意見をいただきましたので、今年度の部会におきましては、事務局側に教育委員会の指導主事を出席させることで、小学校の先生の意見を反映できる体制を取りたいと考えております。

委 員： 新たな方を部会員として推薦することも可能というお話でしたが、全体の人数や規模については変更がないという理解でよろしいでしょうか。

事務局： 各専門部会の人数や規模につきましては、昨年度と同様で実施したいと考えております。また、昨年度は【正】の部会員として登録いただいた方が出席できない場合に、【副】の方に出席していただくという体制を取っておりましたが、今年度も引き続きそのような体制を考えておりますので、よろしく申し上げます。

会 長： ありがとうございます。

続きまして、資料7ページから9ページにかけての2つの専門部会の検討依頼内容や検討体制の強化、専門部会等の開催スケジュール等につきまして、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

例えば、資料7ページの保幼小連携専門部会 検討依頼内容「③保育要録・指導要録の更なる活用に向けた記入内容の検討について」とありますが、この要録について公立就学前施設で課題となっている状況はございますか。

委 員： 要録については、子どもたちの課題ばかりではなく、どのようなことにごんばってきたかなど、その子どもたちの成長した姿についても記入するよう取り組んでいます。

かつては、要録の記入の仕方についての研修がよく行われていましたが、少しずつ様式も変わってきている中で、最近では、研修というよりも記入の仕方が書かれている本などを参考にしながら記入している状況です。公立保育所の中でも記入の仕方について課題となっておりますので、専門部会において記入内容についての議論を深めていくことでよりよいものにしていただければいいと考えております。

会 長： ありがとうございます。要録については、様式を統一するというよりも小学校側が子どもたちのどのような様子を知りたいかということ踏まえて、記入内容につ

いて検討してはどうかとの意見が専門部会でも出ていたと思います。要録の活用について、どのような情報が把握できればよいか、小学校側の意見等がありましたらお願いします。

委員： 要録については、「この観点の力はこれだけです」という書き方ではなく、「こういう生活の力がついた」というような全体的な成長について書いていただいているという話を聞いています。自分の所属する小学校では今年度17園の就学前施設から入学してきますので、子どもたちの「この分野ではこれだけの力がある」というような分野別の力が把握できれば、バランスよくクラス編成をする際の手立てにはなるので、そのような記入があるととてもありがたいです。

ただ、本来の文部科学省で定める要録のねらいとは異なるので、こちらの希望とは少しずれているものの、もともとの「こういうふう書きなさい」ということを捻じ曲げることはできず難しいところだと感じますが、今後議論を深める中で少しでも活用しやすいものにしていければと考えております。

事務局： 具体的な中身の書き方や視点、言葉の使い方などは、専門部会の中で、実際に書いていращる就学前施設の先生方や、それを読まれる小学校の先生方に具体的に議論していただく方がいいのではないかと考えております。

ここでご留意いただきたいのは、専門部会は各3回の実施予定ですが、3回でできるのか、あるいは、3回では難しいのではないかとのご意見があれば、スケジュール等も含めて考えていかないといけないですし、例えば事前にアンケートを採るなど、何か方法を考えていかないとまとまらないのではないかとと思うのですが、そのあたりについてご意見を専門部会の部会長をしていただいているお二方からいただければと思います。

委員： 具体的な内容は専門部会で考えていきたいと考えております。要録については、保幼こ小連携における課題ではあるものの、発達・子育て支援専門部会で検討される移行支援シートについても、子どもの姿を小学校にお伝えするという機能を持つものとして、要録と共通の部分があると思いますので、そのあたりの検討を3回でできるかどうかという難しいと思いますが、今回、研究・研修専門部会を設置していただいておりますので、その中で一緒に検討を重ねながら方向性を見つけていくのがいいのではないかと考えております。

委員： 保幼こ小連携専門部会ではより動的なネットワークをどのように少しずつ醸成していくかというイメージ、発達・子育て支援専門部会ではよりきめ細やかな視点でどのような支援をしていくのかというイメージを持っています。そして、それらを共有化していくのが研究・研修専門部会であり、そこで研修など色々なことを考えていくというイメージを持っているので、回数が3回というよりも、ざっくばら

んに本音で語り合えることが重要なのではないかと考えています。

要録や移行支援シートについては以前からずっと課題だと感じていて、「記録する」ということもですが、「活用する」視点や、その活用するタイミングなどについても、率直な意見交換ができる会であれば、3回ですがとても意義があり、話し合ったことを研修に組み込んでいけるのではないかと考えております。

会 長： ありがとうございます。研究・研修専門部会は、研究・研修だけではなく、保幼小連携専門部会や発達・子育て支援専門部会で出た内容も話し合える場であると考えていいのでしょうか。

事務局： 当面の間、既存の両部会で議論した内容を踏まえて、研究・研修のあり方等を検討する場としております。先ほどの要録の話についても、研究や研修のテーマの1つだと思いますので、研究・研修専門部会の中で議論するのは意義のあることではないかと考えております。

会 長： ありがとうございます。研究・研修専門部会と名前がついていますが、両部会が出てきた意見も踏まえながら、ここで揉んでいくという形ということですか。  
その他に専門部会についてご意見はございますか。

委 員： 資料8ページで、「全ての子どもがより豊かに集団生活」と書かれているのですが、その「集団」という言葉が前提に置かれていることが表現として少しどうなのかと考えております。例えば「園生活」という言葉で綴るなど、集団での生活を強制しない表現が相応しいと思いますが、今後、基本理念が定まってくると、このあたりの表現もより精緻になっていくと思いますので、そのようなことをこの部分だけ見て感じた次第です。

会 長： 貴重なご意見ありがとうございました。ただ今の委員の皆様のご意見を踏まえて、専門部会での議論につなげていけたらと思います。杉本副会長、松井委員におかれましては引き続き専門部会長の役割を担っていただくと共に、今後の専門部会を含む、この推進協議会の運営につきまして、事務局を中心に会長である私と部会長と調整の上、進めていくという形でよろしいでしょうか。

—異議なし—

## **(2) 乳幼児期の教育・保育の基本理念の検討**

・事務局より、資料4に基づき説明

会 長： それでは、ただ今の事務局からの説明について、委員の皆様からのご意見等がご

ございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

委員： 「生きる」は反対です。というのは、「生きる」とは思っていない。主語があまりにも人間に偏っているというような印象を受けます。環境やSDGsと言われ、世界的にもよりほかの生命体との共進性が大切であると謳われている時代であるにもかかわらず、その点が薄められているように感じます。そのため、現在進行形ではなく、単純に「生きる」となってしまうのは、私としては賛成しかねます。

会長： ご意見ありがとうございました。  
松井委員にいくつか案を出していただきましたのでお願いします。

委員： 前々回で他自治体の理念の資料をいただきましたが、結局キーワードという、バラバラのものをいくら議論してもなかなか言葉は決まらないと思っていました。理念は次の会議でおおよその骨格を得たいというスケジュールでもありましたので、何かたたき台のようなものがなければ、話がうまく進まないのではないかと思います、ここに出てきた言葉を使って仮に作ってみたものを配らせていただきます。

漢字にするか、平仮名にするか、そのあたりは皆さんと一緒に考えられたらと思ったのですが、読ませていただきます。

『育もう 未来のつぼみ』『咲かせよう それぞれの花』『つなぐ・支える・共に生きて育つまち うじ』

私なりにこのように作ってみました。この中には、子どもにも保護者にも説明ができるという意味合いも考えましたし、人間に偏らない共生の雰囲気も加えてみました。やはり夢がある、いつまでと区切らない成長、連続した人々の成長を色々な人が共に生きながら、育んでいくというイメージで、たたき台として作ってみました。いかがでしょうか。

委員： ありがとうございます。

『つなぐ』『支える』のところは何か共に創るイメージ、「共創」という感じで「創る」というイメージでしょうか。

全体的にその他の生命とも響き合っているような感じもあるので、いいと思います。

委員： 私自身、保護者と話をする時に、割と木に例えて色々な子どもの成長をお話することが多いので、『育もう 未来のつぼみ』は、私の中でとても子どもの成長のイメージを持ちやすかったですし、『咲かせよう それぞれの花』も、1つではなく、家庭環境や、子どもがそれぞれ持っている得意なこと、苦手なこと、難しさを含めて、「同じじゃなくていいんだよ」「頑張りすぎなくていいんだよ」「少し失敗しても次につながるんだよ」という意味を含めて考えられ、とても心に響きました。併せ

て、前提の中に、子どもにも説明ができるようにという、園生活の中では植物に触れ合うことが多い子どもたちを思うと、低年齢の子どもであってもお花を見る時に触れたり思い出したり、大きく温かく優しく包み込みながら「みんないいんだよ」というイメージでお伝えしやすいのではないかと思います。

委員： これは3つで1つの文章だと思ったのですが、1つずつということですね。

委員： 全部でもいいのですが、前にいただいた資料の中で、とても長いものもありますし、短いものもありました。長いものでも消化できる言葉であればいいと思いますし、短くても尖っているものはきついなというような感じで、本当に思い浮かんだものを書いてみた次第です。これが1つでなくていいというご意見や全部つなげてもいいというご意見もあると思うので、参考としてご提案したところです。

委員： 『育もう 未来のつぼみ』のところが妊産婦の頃からというイメージや、『咲かせよう それぞれの花』が幼児期から中学校へというイメージを持つことができ、両方がカバーできていて、よい印象を持ちました。

会長： とても語呂がよくて、和歌のように詠める感じがいいなとも思っています。最後の『つなぐ・支える・共に生きて育つまち うじ』というところは、資料11ページの①～③を意識した感じで、次の資料12ページを見ると、それぞれのキーワードでセンターが取り組む施策とつながっているということがあるので、3つの柱についてセンターで取り組んでいきたいことがイメージできるような言葉になれば、保護者にも伝わっていくのではないかと思います。

委員： 本当に素敵な言葉だと思って見させていただいております。

『育もう 未来のつぼみ』『咲かせよう それぞれの花』というところが、幼児教育の中で大切にしている「生きる力の基礎」となる部分を育てているというところをイメージした時に本当にぴったりな言葉だと思いました。

横のつながり、縦のつながりを大切にしながら、センターが機能を発揮していければと考えておりますので、『つなぐ』というところは入れたいと個人的に感じています。

委員： 資料10ページに書かれている、「背景に子どもの存在を意識しながらも、その子どもたちの身近にいる就学前施設の職員に向けた言葉」というところからも、『育もう 未来のつぼみ』『咲かせよう それぞれの花』という言葉は職員にとっても、イメージしやすい言葉になるのではないかと思います、読ませていただいています。全部の言葉にした方がいいのかどうかなどについては今ははっきりとしたことは申し上げることはできませんが、流れるような感じの言葉で、音として入って

きやすいと思いました。

委員： 基本理念という、どうしても教育の基本理念などを何となくイメージしてしまいます。『つなぐ・支える・共に生きて育つまち うじ』と、語尾が「うじ」で終わると、「まち」の理念のように感じてしまったので、語尾が「保育」「教育」で終わると、「こういう保育を目指しましょう」「こういう教育を目指しましょう」というニュアンスが伝わるのではないかと感じました。

事務局： ありがとうございます。

この推進協議会を立ち上げる前から基本理念について長い間議論を重ねてきており、どのような言葉が相応しいかを検討することは難しいと感じているところです。そのため、参考までに前々回の推進協議会の際に、他の自治体の例として、「子ども・子育て支援計画」や「教育振興基本計画」のような「計画」に定める基本方針や基本理念の言葉を並べた資料をご準備させていただいたところですが、まず、先ほどのご意見にもありましたように、『○○○○○○○○まち うじ』とにならないような表現方法を検討してまいります。

また、子ども自身の視点に立ちながら、成長していく子ども一人ひとりに対して周りの大人がしっかりと同じ方向を向けるようなキーワードとなるよう議論を重ねていただいているところを踏まえると、『つなぐ』については、子ども同士のつながりだけでなく、周りの大人たちのつながりも含めた意味合いがあるので、基本理念に相応しい言葉であると考えておりますが、『支える』については、乳幼児期の教育・保育においては、子どもを真ん中に置きながら周りがつながるというように、ベースとしては全体を支えていくイメージがあるものの、具体的に誰を支えるのかについては曖昧な印象があるため、ここでは使用しない方向で検討させていただきたいと考えております。

一方で、『共に生きて育つ』については、『共に生きて共に育つ』というように、「共に」を2回使ってもいいのではないかと感じました。

それから、『育もう 未来のつぼみ』、『咲かせよう それぞれの花』については、一人ひとりの子どもたちの個性や特徴、特性をしっかりと見た上で、将来に向かって芽吹いていくということをしかりと謳える言葉ではないかと考えております。『つなぐ』『共に生きて共に育つ』については、周りの大人たちも含めてどのように子どもを支援する体制を取るのかという意味合いの言葉が並んでいると理解いたしました。そのような理解のもと、もう一度事務局の方で検討した上で、次回に案を出させていただく形でよろしいでしょうか。

— 一同了承 —

ありがとうございます。今回ご提案いただいたこの案をベースにしながら、事務

局の方で、子どもたちが成長していくことに対しての思いの部分と、子どもたちを含めた周りの大人たちや人と人との関係性の言葉が並ぶような形でまたご提案させていただきますたいと存じます。

会 長： ありがとうございます。それでは、今回の検討の内容を事務局で整理していただいた上で、次の協議会に向けて準備を進めていただきますようお願いいたします。

#### 4 令和6年度 乳幼児教育・保育協働研修 年間計画（案）

- ・事務局より、資料5に基づき説明
- ・事務局より、令和5年度の研修実績について報告

会 長： それでは、ただ今の説明について、委員の皆様からご意見等がございましたら、ご発言いただきますようお願いいたします。

事務局： テーマはもちろんですが、各施設でももう少し参加しやすい工夫や仕組みについて今年度の専門部会でもご意見をいただければ、取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

あと、研修を受けることで保育士の処遇改善につながる「保育士等キャリアアップ研修」の制度がありますが、この研修については昨年度に引き続き今年度もその指定に向けて申請するところです。また、今回この研修を受けていただくことで幼稚園教諭にもプラスになる制度があれば宇治市として動いていきたいと思っておりますので、教えていただければと思います。

委 員： 例えば、講演形式のもので、講演を録画して、録画したものを園内研修に活用できるようにしていただければありがたいです。ただ、費用がかかってしまうので、検討が必要だと思いますが、働き方改革等でなかなか研修に出にくい事情もあるため、そのような形で学びを共有できる仕組みがあればお願いしたいと思っております。

事務局： 今のご意見は予算が伴いますので、検討させていただきます。

会 長： 研修No. 5、No. 6の公開保育については、公開してくださる私立幼稚園や認定こども園は見つかりそうでしょうか。

事務局： それぞれの団体を通じてお願いしており、ご検討いただけると伺っております。

会 長： 来年度にセンター開設ということで、その試行の段階だとは思いますが、「公開して良かった」と、公開した側の園が思っただけのような研修にすることが、



試行であっても継続して実施するためには大事だと思いますので、その内容などについては、研究・研修専門部会でその効果の検証などを行いながら進めていけたらいいと思っております。

## **5 その他連絡事項**

事務局： 専門部会の部会員に係る各関係団体への推薦依頼や第1回目の専門部会開催の日程調整につきましては、追ってご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

## **6 閉会**

会長： 以上をもちまして、本日の議題はすべて終了とし、令和6年度第1回目の協議会を終了させていただきます。本日はありがとうございました。